



令和5年2月現在の区役所

ちょっと昔へ…

平成15年4月

さいたま市の政令指定都市移行によって、見沼区が誕生(人口 150,085人)。さいたま市の北東部に位置し、面積・人口ともに、9区中で2番目の規模を有していました。

平成17年4月

区の色を制定「自然が豊かで澄んだ空が広がっているから」とのことから区の色をそらいろに制定しました。



平成20年5月

見沼区八景を選定
後世に残したい素晴らしい景観として区民アンケートにより選定しました。(P10~15で紹介しています)

また、区民アンケートにより区のシンボルを制定しました。



平成14年11月頃、建設途中の現区役所

見沼区誕生二十周年
知ってほしい「見沼区」のこと
〜昔と今、そして未来へ〜
豊かな自然と市街地が共存する見沼区。
魅力の一つである田園風景や斜面林を残しつつ、
都市機能も充実していきます。



※完成したイメージ図は、計画段階の図面に書き起こしたものであり、細部の形状、色彩等は実際とは異なる場合があります。

未来に向けて…

- 1 七里駅新駅舎／令和6年3月には新駅舎になり、駅北側の地区からの利用が便利になります。さいたま市が誇る桜回廊の玄関口です。
 - 2 サーマルエネルギーセンター／令和7年4月から運営されるごみ処理施設です。ごみの処理から環境問題を考える環境啓発施設を併設した最新の施設となっています。
 - 3 東楽園再整備事業／令和7年度より供用開始されます。サーマルエネルギーセンターの余熱を利用した入浴施設や、温水プールのほか、屋内運動場などが整備される予定です。
 - 4 新設大和田地区小学校／令和8年4月開校予定です。放課後児童クラブ、保育園、市民利用を前提とした学校体育施設を併設した小学校が大和田地区に新設されます。
- その他、さいたま市初の道の駅を宮ヶ谷塔地区に建設する予定があります。



変わっていく見沼区の
姿から目が離せません。

もっと昔へタイムスリップ



開設当時の東大宮駅周辺

開設当時の東大宮駅周辺は土地区画整理中で道路が舗装されておらず、雨の日は靴がドロドロになってしまうため、駅の階段下に設置された下駄箱に長靴を置いて、靴を履き替えて通勤したとか。



大和田銀座商店街

買い物する主婦が大にぎわいの大和田銀座商店街。
大宮商業高校の女学生が下校する姿が見えますが、昭和30年代には夏の甲子園県予選決勝まで勝ち進むほどの野球の強豪校で、男子学生も多くいたようです。

昔も今も変わらない見沼



加田屋田んぼの昔と今

着ているものこそ違いますが、よく見ると、風景はあまり変わっていないように見えます。
今も昔も変わらず美しい桜回廊は、時代を超えて、人々の思い出をつなげていきます。



丸ヶ崎地区の昔と今

昔ながらの田園風景が今もなお残る丸ヶ崎地区。
古地図上の家は今も変わらぬ軒数が残っています。